

2 もくぞうもんじゆぼさつきしぞう 木造文殊菩薩騎獅像 く 1 軀 [有形文化財（彫刻）]

[所在地] 奈良市法華寺町 882 番地

[所有者] 光明宗法華寺

[法 量] 像高 73.0cm

[時 代] 鎌倉時代

[概 要]

法華寺本堂の東脇間内に安置される、獅子に乗る姿の文殊菩薩像である。獅子は後補、蓮華座は転用とみられるが、光背と胸飾・腕釧は当初のものが伝わる。本体は頭体幹部を通して前後2材を矧ぎ、内割りの上割首し、両体側に各1材、両脚部に1材を矧ぐ。目尻の上がった謹厳な表情や厚みのある上体の表現、大ぶりの紐状衣文の彫法などから、制作時期は13世紀半ばから後半と考えられる。

近年実施されたX線透過撮影及びCTスキャン撮影により、本像の頭部・体部・両脚部の各内割部に約180点もの納入品が籠められていることが判明した。多量の納入品を籠めた像には、西大寺の叡尊が造立に関与した般若寺の文殊菩薩像が知られている。法華寺が鎌倉時代中期に叡尊によって本格的に復興されたことから、本像が法華寺復興期に制作された可能性が高いと考えられる。

本体・光背とも細部に至るまで入念な作行きをとどめており、保存状態も大変良好である。造立当初の納入品を伝える鎌倉時代中期の優品であるとともに、叡尊の文殊信仰に関わる造像とみられる作例としても彫刻史上価値が高い。

